

Hot dogとCoca-Cola



釧路市医師会
南小樽病院

山中啓明

少年の頃から、野球が大好きだった。

昭和9年生まれの私、太平洋戦争終戦の昭和20年国民学校5年生（当時網走市在住）、その翌年にはもう学校に野球部ができ、練習に励んだ。プロ野球も復活した。翌昭和22年、新制中学1期生（釧路市に転居）、「6、3制野球ばかりがうまくなり」（この言葉は今や死語になってしまったのか）まさに言葉どおり皆が野球を愛していた（ただし今と違って男性のみ）。街には少年対象の野球雑誌だけで7～8種類もあった。赤バットの川上、青バットの大下が日本中を席卷していた。

私はたいした技量も体力も無く、中学では野球部のマネージャーのような仕事をしていた。高校では部には入らなかった。しかし野球への憧れは捨てがたく、英語の勉強を兼ねてアメリカからベースボールマガジンを取り寄せ、辞書と首引きで読んでいた。当時の大リーグはアメリカン、ナショナルの各8チーム、西海岸にはまだチームは無かった。今はもうないチームではブルックリンジャース、ワシントンセネターズなどの名が懐かしい。選手ではボブ・フェラー、ジョー・ディマジオ、テッド・ウィリアムズ等々、名だたるスターが目白押しだった。

そんな雑誌購読の楽しみの中で、どうしても意味不明なのが、しばしば出てくるHot dogとCoca-Colaだった。何か食べ物と飲み物らしい。辞書にはない。英語の先生に聞いても分からない。一体「熱い犬」って何だ？

しかし、程なくその「熱い犬」の正体を突き止める機会が来た。昭和27年春、高校3年、修学旅行。釧路—函館—青函連絡船—青森—日本海周りで大阪へ、車中2泊の旅だった。そして東京、あの皇居前広場、有名な血のメーデー事件の日、私は憧れの後楽園球場にいた。そして念願の対面？が叶った。

ホットドッグは美味かった。しかしコカ・コーラは何か薬臭く、飲めなかった。

しかしさすが世界のコカ・コーラ。私はだんだんこの飲み物が好きになった。今でもコンビニに寄ると、つい何本か求めてしまう。

北大に入学でき、一時全学準硬式野球部に所属したことがあるが、パッとしなかった。そして医学部に野球部ができた。嬉しかった。これだ！と思った。医学生でありながら野球ができるとは、何たる幸せであろうか。昭和33年夏、東京で行われた第1回東日本医科大学対抗戦で、わが北大は見事優勝した。

爾来60年、昨年は部創立60年記念祝賀会が盛大に行われた。多くのOBの努力があった。長く部の面倒を見てくださった青柳孝一先生（元札幌中央病院）に感謝。今は近藤真先生（北海道整形外科記念病院）が会長として、部を見守っている。そして今や北大医は毎年優勝候補の筆頭に挙げられる強豪になっている。

今年84歳、最後の年男であろう。医師としての仕事も終わりに近づいているが、悔いはない。学年を越え、医局の壁を越え、野球部の仲間にも助けられてきた。これからもこうした絆はいつまでも受け継がれていくことだろう。

年の初めにあたり、ホットドッグとコカ・コーラ、このほろ苦いだけの昔の思い出を通して、わが北大医学部準硬式野球部の今後の健闘を祈っています。

（注：あの芥川龍之介が大正時代Colaを好み、米国から取り寄せて愛飲していたという一文を読んだことがあるが、本当だろうか？ 文の詳細は不明）



昭和33年8月 第1回東医大優勝の夜



平成29年9月 北大医学部野球部創部60周年記念祝賀会